

にし たか ほし い せき
西高椅遺跡

栃木県小山市高椅地内

現地説明会資料 平成26年8月31日(日)

小山市

(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
下野市紫 474 TEL 0285-44-8441

1. はじめに

西高椅遺跡では、小山市教育委員会により、平成3・4・5年度に前方後円墳1基・方墳3基・円墳10基・竪穴式小石室と平安時代の火葬墓などを、平成24年度には円墳2基と竪穴式石室を調査しました。小山市から委託を受けて埋蔵文化財センターが調査を開始した平成25年度は、旧石器時代の礫群1か所、古墳時代中期(今から1,550年前ころ)の帆立貝形古墳1基・円墳17基と竪穴式石室や土坑墓などを調査しました。平成26年度は円墳12基を調査する予定ですが、今後新たな古墳が発見され、古墳数が増える可能性もあります。古墳時代中期の円墳4基・古墳時代後期の円墳1基と、古墳の周溝の外に造られた竪穴式石室などの埋葬施設がよく保存された状態で確認されましたので、見学していただく機会を設けました。

2. 前年度までの調査でわかったこと

西高椅遺跡で発見された古墳群は、古墳時代に造られた「初期群集墳」といわれるもので、古墳時代後期によくみられる「群集墳」の中では古い時期のものに該当します。最大規模である長さ42mの帆立貝形古墳である26号墳に近づくほど古墳群は密集し、周囲の堀(周溝)を変形させたり、谷に古墳を造る事例も見られました。また、この周辺地域では古墳時代中期から後期まで140基以上という数多くの古墳が見つっていますが、同じ時期のムラ跡や建物跡が見つかっていません。

古墳時代後期の土師器・須恵器や耳環も、少量ですが出土しており、現段階の調査で古墳時代後期の円墳1基が見ついています。



H24・H25年度調査区(北上空から)



西高椅古墳群と周辺の古墳
(『寺野東遺跡Ⅶ 古墳時代墳墓編』掲載図に加筆)

3. 調査の成果

(1)44号墳

墳丘径が約20mの円墳で、周囲には幅約1～4mの周溝(ほり)が廻っています。墳丘は、盛土はほとんど削られてしまっていて残っていませんが、当時の地表面の黒色土を掘り込んでいる4基の埋葬施設を確認できました。墳丘の中心には、粘土を多用した横穴式石室が、南側斜面には、竪穴式石室と、粘土を使用した土坑墓が確認できました。



44号墳全景(南東から)



44号墳の横穴式石室(4号主体部、南西から)



44号墳の竪穴式小石室(1号主体、東から)

(2)45号墳

墳丘径約32m、高さ2.8m、周溝の幅は約6mあります。これまでに調査した円墳の中では最も大きいものです。中心部の埋葬施設は未発見ですが、北西部の周溝外側を掘り広げた長さ2.2m×幅0.8mの周溝内1号主体部にも人を埋葬したと考えられます。北東部の中腹に約2.5mの間隔で円筒埴輪を立てた状況がわかりました。古墳時代中期の古墳と考えられます。



45号墳に埴輪を立てている状況(南西から)



45号墳全景(南西から)



45号墳の土坑(周溝内1号主体部、南東から)

(3)46号墳

墳丘径約27m、高さ約2.5mの円墳で、墳丘の中心から西側は、南北を通る道路により消滅していました。埴輪は墳丘斜面から周溝の内側にかけて破片が多数出土しました。45号墳のようにもとの位置を保ったものはありませんでした。

墳丘の中心部に作られたと推定される主体部は道路の掘削の際に消滅してしまったと考えられます。中心部から離れた南斜面には粘土で嚴重に覆われた竪穴式石室が確認できました。中心に葬られた人と関わりのある人の墓と推定されます。



46号墳全景(東から)



46号墳の南斜面につくられた竪穴式石室(西から)



46号墳の南東部斜面で出土した埴輪破片と土器

(4)51号墳

墳丘径約7.5mの円墳で、墳丘はすでに削られてしまっていて残っていません。周溝は幅約0.6mで、西高椅遺跡で現在調査されている古墳の中で最も小さなものです。この古墳の中心からやや南側に主体部がありました。土坑内に遺体を囲むように粘土を使用しています。粘土で囲まれている内側の部分は長さ約1.8m、幅約0.7mで比較的大きい埋葬施設です。副葬品は出土していません。



51号墳の埋葬施設(粘土囲い土坑墓、南から)



51号墳全景(北から)



51号墳作業風景(北東から)

(5) 様々な埋葬施設

古墳以外にも、いくつかの埋葬施設を発見しています。現在調査している古墳外の埋葬施設は4基あり、3基が竪穴式石室、1基が土坑墓です。埋葬施設の多くは粘土を多用しており、粘土で全体を覆った状態で発見されます。

河原石を用いた竪穴式石室が目立つのは、西高椅遺跡の一つの特徴です。一方、他に類例の乏しい石敷き土坑墓もみられます。竪穴式石室では、石室内や付近で蓋石が見つからないことから、石ではなく木の板を蓋に使用したと考えられるものがあります。また、44号墳の周溝の南側を突出させて造られた石室も確認されています。この埋葬施設は小型で子供のお墓だと思われ、刀子(鉄のナイフ)が一本出土しました。44号墳に何らかの関係を持った人物が埋葬されていると考えています。竪穴式石室と石敷き土坑墓が重複した遺構も見つかっています。下部に竪穴式石室があり、それをある時期に一部を壊して上部に割れた石や埴輪を混ぜた石敷き土坑墓を造ったと考えています。



竪穴式石室(SZ-50、西から)



竪穴式小石室(SZ-52、南から)



石敷き土坑墓(SZ-53A、南から)



竪穴式石室(SZ-54、南から)

4. まとめ

現在調査している西高椅遺跡とその周辺には古墳時代中期の古墳が密集して築造されていることが分かっています。しかし、この周囲では古墳時代中期の集落遺跡がいまのところ発見されていません。このことからこの地域は、墓域として使用されていたと考えられます。

今年度は、これまでに5基の古墳を調査し、そのうち2基が墳丘を残したものでした。墳丘の残る古墳では、多くの埴輪片や土器、立った状態の埴輪などの遺物が出土しています。墳丘を欠いたものでも、4基の埋葬施設を持った44号墳も発見されており、古墳外の埋葬施設も多く、それぞれに特徴を持った造りをしています。調査したそれぞれの古墳は周溝が近接した距離にあり、お互いの古墳を意識した形で造られていることが分かります。

今後の調査で、古墳の数や埋葬施設も増え、古墳時代以外の遺構や遺物も発見されると思われます。更に調査を進めることでこの地域の歴史を解明することができるでしょう。